



県歯科医師  
連盟評議員 鈴木  
龍

一般に歯に詰めたりかぶせたりする時、金属が使用される。金、パラジウム、銀の合金が主であるが、コバルト、ニッケル合金、銀合金、また自費治療では白金なども使われる。



こうした歯科用金属に対して問題となるのが金属アレルギー。アレルギーのない人には全く問題ないが、強いアレルギーのある方には手のかぶれ、口腔内粘膜の変色、身体のたるさなどの症状が報告されている。金属は唾液で溶解し、原因を除去しても効果がすぐに出ないことが多い。パッチテストは皮膚科やアレルギー科などに依頼して

□□⑦□□

## 金や白金も意外に多い

おり、経験上でのお話だが、パラジウムは症状が強く、意外にも貴金属の金や白金にもアレルギーが多い。最近では金属以外の材料も進歩し、自費治療ではセラミック単独の治療が可能。またチタンはインプラントに使用される。チタン表面は酸化チタンの被膜で覆われる特性がある。

チタンは削ると火花が出るがこれは空気中で瞬時に酸化されるためだ。チタンが直接生体と触れることがないため、理論上アレルギーの心配がない。被膜を厚く処理したタイプ、さらに骨の成分であるハイドロオキシアパタイトをコーティングしたインプラントもある。

被膜は安定性が非常に高いが、時間の経過とともに親水性を失う。空気中で一カ月放置すると親水性は失われインプラントは骨と付きにくくなる。したがって埋入直前まで製品は開封しない。一部のインプラント使い回しなど信じられない事件でインプラント治療が誤解されるのは非常に残念である。